

第2章

クラウドサービス関連ガイドライン

クラウドサービスの調査

1. クラウドサービスの調査

1. SaaS 提供の有無の調査

クラウドサービスのうち、SaaS(ASP)の有無について調査します。調査をする場合には、RFI を行う等、広く情報を収集してください。

(1) LGWAN-ASP サービスリスト

LGWAN-ASP サービスとして登録されているものは、J-LIS(地方公共団体情報システム機構)のサイト(https://lgwan-asp-j-lis.go.jp/service_list)に掲載されているため、LGWAN-ASP の利用を検討する際は、このサイトから存在するかどうかを確認することができます。

なお、各局等における LGWAN パソコンと LGWAN 接続系リモートデスクトップサービス(RDS)を合わせた LGWAN パソコン、通信量等の環境を考慮する必要があります。

(2) SaaS について

業務にあったサービスについて、広く調査します。調査方法は、インターネットから検索、RFI、IT ソリューションが集まるイベントに参加、コンサルに依頼するなど様々な方法があります。業務に適合するサービスがない場合でも、複雑な業務でなければノーコード・ローコードツールで対応できる場合や、業務のうち一部を手作業により代替することでサービスに適合させることができる場合もあります。決め打ちで狭い範囲を調査するのではなく、業務をゼロベースで見直す前提で、幅広く調査しましょう。

例えば、〇〇業務の△△情報を地図上で管理できるシステム(個別具体の業務に特化したサービス)を求め、調査を行い、サービスが発見できなかった場合は、地図上で任意の情報を管理できるシステム(汎用的なシステム)を調査する。

また、実際に業務に適合するかを確認するためには、セミナーへの参加やトライアルの実施、事業者に直接説明を求めるなど、より踏み込んだ調査も行う必要があります。

2. 適切なクラウドサービスを選定する

1. 適切なクラウドサービスの選定

「大阪市クラウドサービス利用基準」で、取り扱う情報資産の種類によりクラウドサービスの選定条件を定めていますので、「6 クラウドサービスの利用(重要情報資産を取り扱う場合)」、「7 クラウドサービスの利用(重要情報資産を取り扱わない場合)」を参照のうえ、適切なクラウドサービスを選定してください。

(非公開)

なお、第1章「1. クラウドサービスについて」でも述べたとおり、IaaS・PaaS の場合は、原則として、大阪市共通クラウドを利用します。大阪市共通クラウドは、市民サービスの向上や行政運営の効率化に向けた「行政のデジタル化」を推進するため、パブリック・クラウドである「Microsoft Azure」を活用して、庁内情報ネットワークおよび公開系ネットワークで稼働する各業務システムの構築環境として導入されたものです。

IaaS・PaaS によるシステム構築を行う場合は、想定事業者に大阪市共通クラウド(Azure)上でのシステム構築が可能かを確認しましょう。

大阪市共通クラウドの利用にあたっての留意事項

- ・ クラウドリフトではなく、PaaS を最大限活用したクラウドシフトを基本として移行を計画する
- ・ オンプレミスとの費用比較だけでなく、不要となるハード保守や物理サーバ維持にかかる費用、利用効果等を抽出する
- ・ クラウドの特性を考慮して、冗長構成やバックアップ(遠隔地保管)等のシステム構成や運用を見直す
- ・ リソースの実績をもとに適切なサーバスペックに定期的に見直す(当初から将来を見据えた高スペックにしない)
- ・ サーバの稼働停止の計画を立てて適切な運用を実施する(従量課金対策)
- ・ デジタル統括室へリソース等の利用料を予算配付するため、次年度の稼働予測を立てる

Oracle 社製のデータベースについて

Oracle 社は、DBMS の提供において世界的な老舗です。安定性、パフォーマンス、拡張性など現在においても最も洗練された DBMS の一つであり、トップシェアとなっています。

しかしながら、Oracle Database の価格が競合のプロダクトと比較して高額である中で、価格改定や廉価版プロダクトの提供が停止されており、Oracle 社クラウド・プラットフォームでなければ高額なライセンス費用となる場合があります。

現行オンプレミスシステムで Oracle 社製のデータベースを利用している場合は、クラウドにした場合のライセンス費用が現行よりも高額になる可能性があるため、その点にも留意しつつ、システムの実現方式をご検討ください。